

開校準備委員会 だより

こちらは町のホームページでもご覧いただけます。

◆◆第9回 開校準備委員会を開催しました◆◆

と き 令和7年1月16日（木）午後6時30分より ところ 町民総合センター あ～す
内 容

○町長あいさつ 嵐 正人 町長

義務教育学校の開校は必要！計画を推進していかなければいけない

<あいさつ文>

昨年中の町長選挙の中で、私は「暮らし満足度No.1のまち」を公約に掲げまして、町民の皆様のご支持をお願いしていたところでございます。暮らし満足度というところで見ますと、子育て支援はもちろんのことではありますが、町の将来を担う子ども達の教育環境の充実も優先的に取り組まなければならない政策の一つだと考えております。私が選挙中、「義務教育学校開校に待った」を申し上げました時に、それを受けた町民の皆さんは、義務教育学校の計画自体がなくなったと受け止める方もいらっしゃったと伺っております。私は、そのあとに続く言葉としまして、「子ども達・保護者・地域ファーストの学校環境の整備を推進していきたい」と申し上げていたところでございます。

改めて委員の皆様にご場をお借りして、私の考えをお伝えしたいと思っております。まず、計画変更となった施設一体型での開校、それは、現飯豊中学校の改修と小学校課程のための校舎増築が伴う計画であり、財源と工事期間の確保が必要となっております。これは、教育委員会が説明会などで説明してきたとおりでございます。私は、拙速に進めることなく、立ち止まって、確実な計画と見通しを立てることが必要だと考えておるところでございます。

義務教育学校については、超少子化の時代にあって、本町の子ども数の現状を見ますと、多様性の中で学ぶことでの児童・生徒の成長、そして教育的効果、学校の教育活動・指導・支援の充実、さらには持続可能な学校であるためにも、開校が必要だと考えておりますし、計画を推進していかなければいけないと考えております。新しい学校を創立することは、大変大きな決断になりますので、財源の課題と、今の子ども達へ教育的効果がより発揮できる適切な時期を一体的に考えて、先の議会でも議論になりました校名の再検討を含め、開校時期を判断してまいりたいと考えております。

従って、義務教育学校開校準備委員会は、変更することなく継続して設置いたします。委員の皆様には、引き続き、義務教育学校が開校に至るまで調査・検討をお願い申し上げます。

なお、会議の中で事務局から説明があると思いますが、現状の極小規模学校・複式学級の解消のための緊急的な対応としての学校統合方針案は、当該校の子どもが多くの人間関係の中で切磋琢磨して成長することを願う保護者の皆様の思いを受けて、教育委員会で教育的効果を検討された上での案と聞いております。複式学級解消が、決してゴールではないということを申し上げます。義務教育学校開校への過程の一つであり、同時並行で準備を進めるものとなります。委員の皆様には、引き続きご苦勞をおかけいたしますがご理解くださいますようお願い申し上げます。

結びに、本年も委員の皆様のご活躍とご健康をご祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞ、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

<町長就任の言葉や本委員会への労いの言葉は省略しています>



▲嵐町長あいさつ

○事務局より報告 義務教育学校「飯豊町立いいでの森学園」開校までの間の
極小規模学校・複式学級解消の対応策案について

◆対応策案の詳細はこちらからご覧ください→



○教育長講話 熊野 昌昭 教育長

「町がめざす義務教育の未来像」

<講話の主な要旨>

・義務教育で育てたい2つの学力観

幼児教育・保育では「見えない学力」（意欲や我慢強さ等、数値化できない力）を育てる。小学校以降の教育では「見える学力」（計算力など数値化できる力）も育てる。学校教育の学びは、幼児期の学びの基盤の上に始められるべきと考える。

・1学級20名程度のよさ ～子ども達にとっての良さ～

20名程度の学級は、広がりがありながら全員が仲間として意識できる集団であり、自立を促しながらも教師の目が届く集団規模である。極小規模と多人数、双方のメリットが生き、且つ双方のデメリットによる影響が少ない規模でもある。

・町内小中学校の将来的なあり方

町の現状として、少子化の一層の進行と極小規模学校、複式学級の増加が進む。

基本的な考え方として、単なる学校の統廃合ではなく、全時的な視野に立って小中学校のあり方を考える。また、幼小中一貫教育をさらに推進していきたい。

・飯豊町のめざす「誰一人取り残さない教育」「質の高い教育」

特に、自己有用感と主体性の育成を図りたい。そのためにも、少子化対応として、まず、極小規模校と複式学級の解消を行いたい。さらには「新しい教育環境」としての施設一体型の義務教育学校を早期に開校したい。



▲教育長講話

○協議 事務局、各専門部会の報告事項について

確認したこと

<事務局>

飯豊町義務教育学校 開校準備委員会 今後の見直しを確認

町長のあいさつを受けて、事務局案を協議し、以下のことを確認しました。

- 1 義務教育学校開校準備委員会は継続して設置します。
- 2 一部の事項を除き、義務教育学校「いいでの森学園」の開校年度確定後に、専門部の各事項の調査検討を再開し、本委員会において提案事項に係る協議を行います。
*一部の事項：校章の最終選定、制服・運動着等の選定案（総務部会）
なお、第10回開校準備委員会は計画通り（令和7年3月6日）開催します。



極小規模学校・複式学級解消のための統合方針案と開校準備委員会との関連を確認

報告した統合方針案に関わり、閉校式典など具体的な進め方や本委員会との関連を含めて協議し、以下のことを確認しました。

- 1 統合方針案の決定後、本委員会とは別に、教育委員会が主導し、当該校に協力をいただきながら統合準備を進めます。
- 2 統合に当たり、本委員会において調査検討及び決定した事項を参考にしたり活用したりします。

<学校運営部会>

いいでの森学園の「学校経営計画」「学校行事計画」の作成について 調査検討の改善計画を確認

いいでの森学園の施設一体型への変更、開校の延期を受けて、「学校経営計画」や「学校行事計画」の作成計画を見直し、9年度以降の開校を見据えて改めて提案いただきました。本年度の教職員の皆様に、調査検討いただいた各事項を資料とし、9年度以降の教職員の皆様に引き継いでいただく計画になっています。

いいでの森学園（飯豊町義務教育学校）開校に関してのご質問や心配事は、こちらまでお寄せください。

【事務局】教育総務課 義務教育学校準備室 E-mail:i-junbi@town.iide.yamagata.jp